

折に触れ 四字熟語

NO. 12 『伯愈泣杖』 はくゆ きゅうじょう

< 意味 > 親が年老いたことに気づき、嘆き悲しむこと。

< 出典 > 「説苑」<建本>

『伯愈有過、其母笞之泣。其母曰、他日笞子未嘗見泣。今泣何也。対曰、他日愈得罪笞嘗痛。今母之力不能使痛、是以泣。』

読み下し： 伯愈^{はくゆ}有^{あやまち}過あり、その母これを笞^{むちう}つに泣けり。その母曰く、他日笞^{こた}つとき、子未^しだ嘗^{かつ}て泣きしを見ず。今泣くは何ぞやと。対^{こた}へて曰く、他日愈罪^{あつ}を得て笞^{あつ}たるゝに嘗^{あつ}て痛みぬ。今母の力、痛ましむること能^{あた}はず、是^{これ}を以て泣くと。

通 釈： 韓伯愈（中国漢代の人）という男がある時過をおかした。その母が彼をむちうつと泣きだした。その母が「お前はこれまでむちうっても一度も泣いたことはなかったのに、いま泣くのはなぜなのか」と怪しんでたずねた。伯愈は「私はこれまでお叱りを受けることがありましてむちうたれると、いつも痛みを覚えました。ところが今日お母さんの力が私に痛みを覚えさせることが出来ないのは、お母さんの力が衰えたことによると思うと、悲しくて泣いたのです」と答えた。

一 言： 親孝行シリーズその2

参照文献： 明德出版社・高木友之助訳注「説苑」 三省堂「四字熟語辞典」